

1.七ヶ宿ダム水源地域ビジョン策定の歩み

1.1 「水源地域ビジョン」とは

ダム及びダム周辺の豊かな自然・文化等を活用した水源地域の自立的・持続的活性化及びバランスのとれた流域の発展を図ることを目的に、ダム水源地域の自治体・住民等がダム管理者と共同で策定する行動計画です。

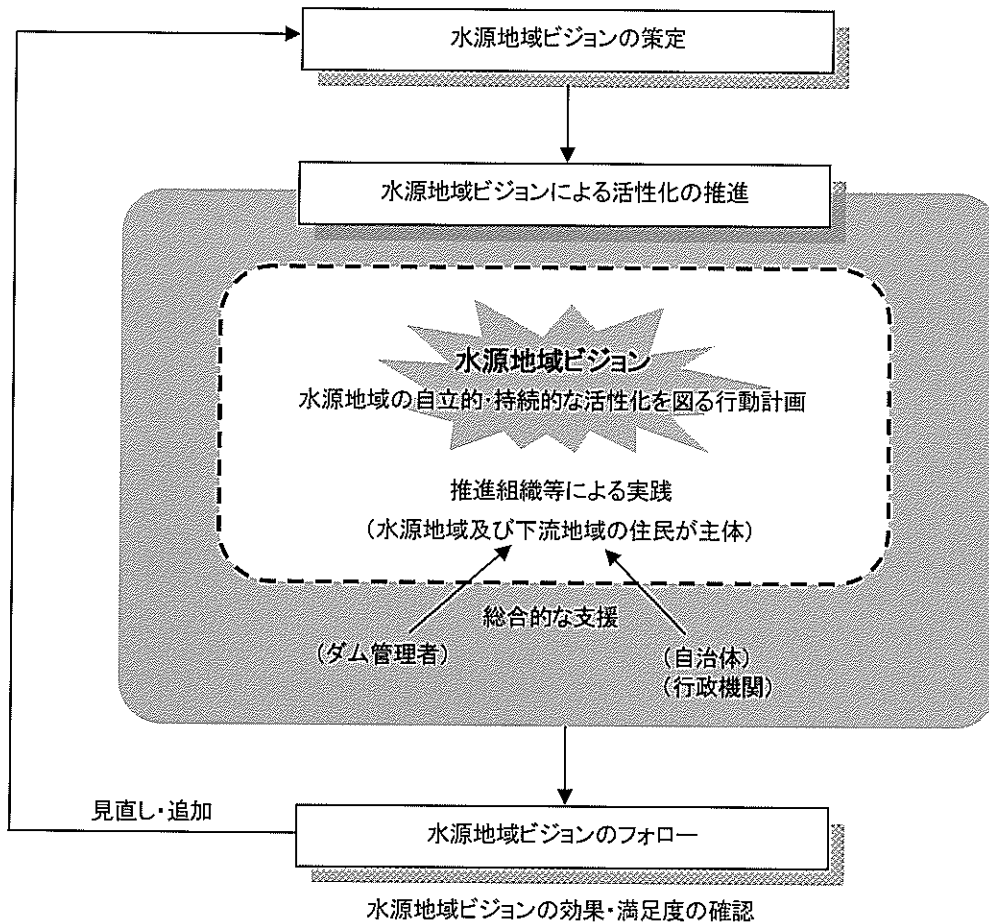


図1 水源地域ビジョンの全体概要図

1.2 七ヶ宿ダム水源地域ビジョン策定の体制と流れ

(1) 水源地域ビジョン策定の体制

七ヶ宿ダム水源地域ビジョンの策定にあたっては、実行性のある行動計画づくりのために地元有志による「水守の郷まちづくりネットワーク（以下、水守の郷ネット）」を設置し、検討を進めました。

また、「七ヶ宿水源地域ビジョン策定委員会」は、この懇談会の提案（素案）をもとに検討し、そこでの意見等を踏まえてビジョンをとりまとめました。

（「水守の郷ネット」及び「七ヶ宿ダム水源地域ビジョン策定委員会」の詳細は資料編を参照ください）

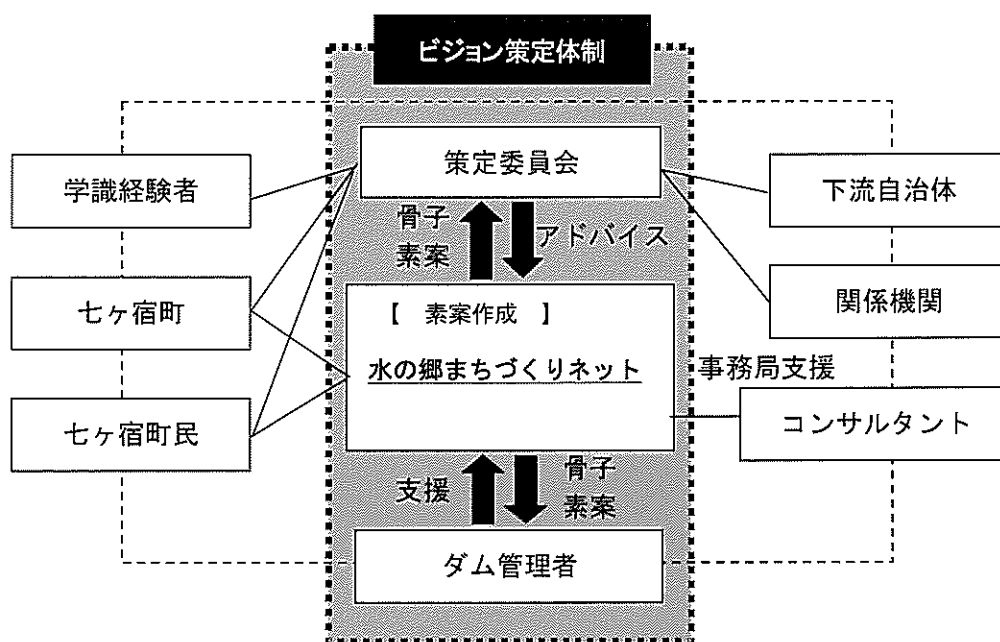


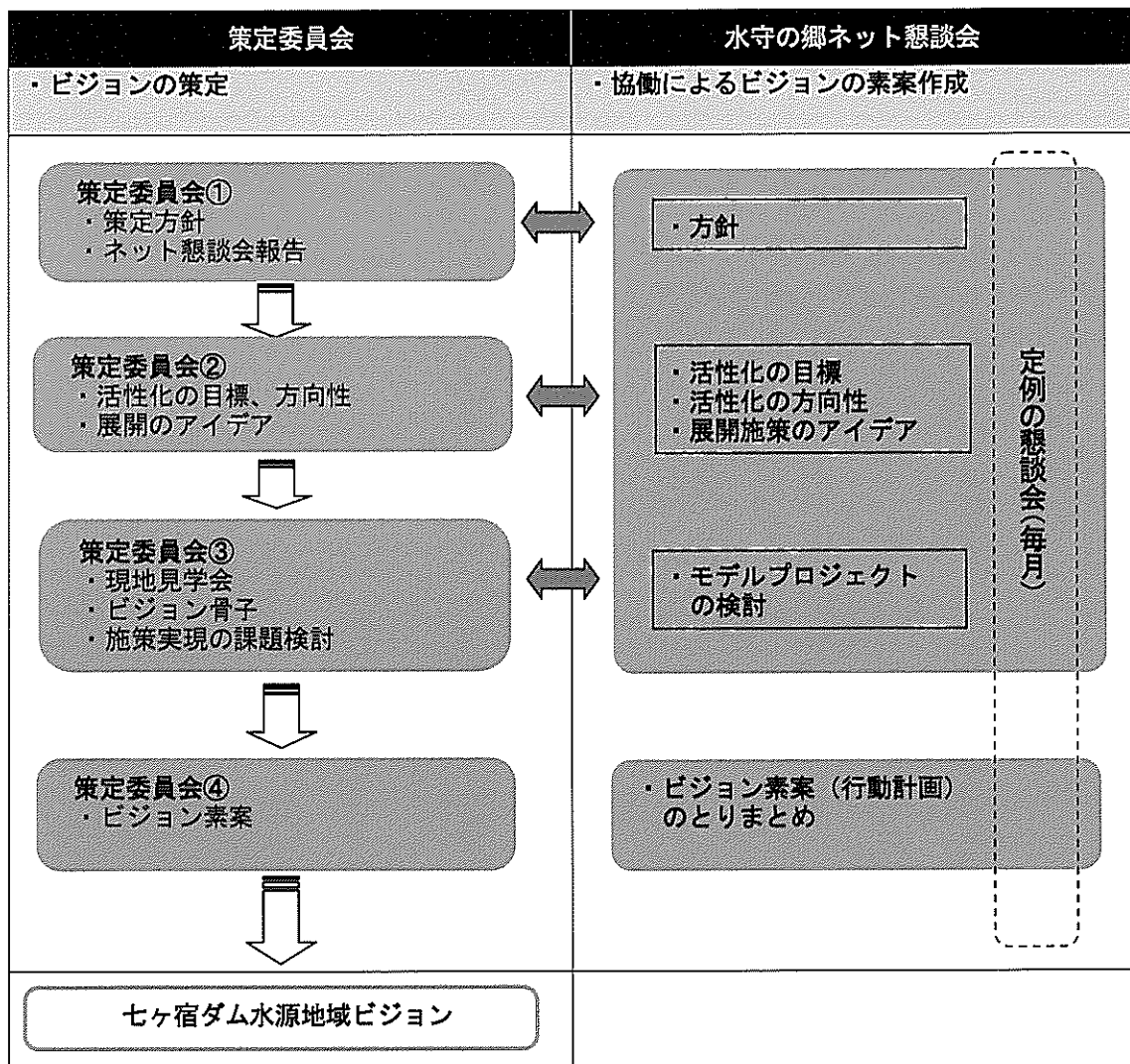
図2 ビジョン策定の体制

(2) 水源地域ビジョン策定の流れ

ビジョンの策定にあたっての策定委員会は、平成16年度～17年度にかけて4回開催しました。

また、その間、「水守の郷ネット」は、平成15年12月8日の「座学」をはじめ、平成17年11月までに、利水地域での出前懇談会を含めて延べ24回の懇談会を開催し、ビジョンの素案作成に精力的に取り組みました。

(懇談会の概要は、資料編を参照ください)



1.3 七ヶ宿ダムと水源地域の概要

(1) 七ヶ宿ダムの概要

七ヶ宿ダムは、南蔵王連峰を背後に宮城県刈田郡七ヶ宿町の東端、阿武隈川水系白石川の上流に平成3年に完成しました。

白石川は流路延長 60.2km、流域面積813.6km²という阿武隈川最大の支流であり、七ヶ宿ダムの集水面積は 236.6 km² とその流域面積の29%を占めています。

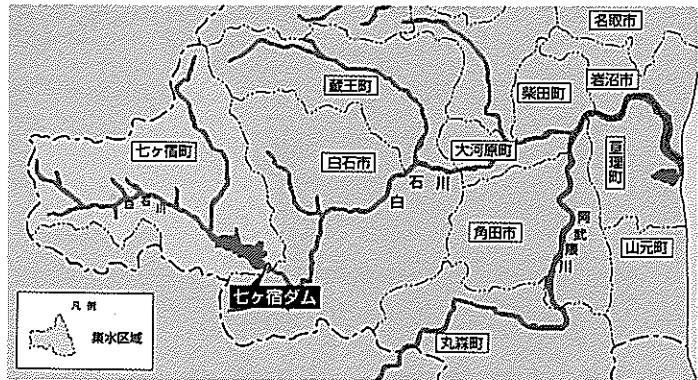


図3 七ヶ宿ダムの位置図

ダムの目的は、洪水調節、かんがい用水の補給、水道用水・工業用水の供給、流水の正常な機能の維持など多数あり、多目的ダムとして幅広い役割を担っています。

特に、水道用水は、仙台市を中心とする仙南・仙塩地区（7市10町183万人）の水瓶として重要な役割を果たしています。

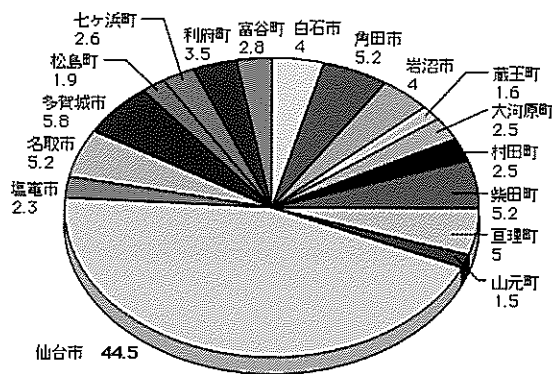


図4 市町村別給水内訳(16年度)



図5 仙南仙塩広域水道供給範囲

(2) 七ヶ宿ダム水源地域の概要

七ヶ宿ダム水源地域の概要は、以下のとおりです。

①地勢

水源地域の七ヶ宿町は、宮城県南西端に位置し、山形・福島両県と接する山間の町であり、阿武隈川の支流である白石川上流の水源の町です。標高 220～1760mの奥羽山脈東南斜面に位置するため、気温は一般的には冷涼で、積雪は関で 80cm、湯原で 200cmに達することもあり県内有数の豪雪地帯となっています。



[水源地域の課題]

- 水源の町として、仙南・仙塩地区（7市10町）にきれいで美味しい水を安定的に提供できる環境の保全・維持が求められています。
- 森から育てるおいしい水づくり「水守人ミーティング in 七ヶ宿」等の運動を利水地域と連携して広げていくことが期待されています。
- 豊かな自然をゴミ投棄等から守り、白石川流域全体で生態系としての地域のつながりを回復していくことが望まれています。

②歴史

現在の国道 113 号は、藩政時代「山中七ヶ宿街道」と称し参勤交代の要路となっており、また諸国の行商人や出羽三山詣で人馬の往来が頻繁であったため七ヶ宿町は宿場町として発展してきた歴史を有しています。

[水源地域の課題]

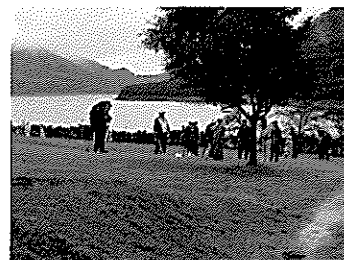
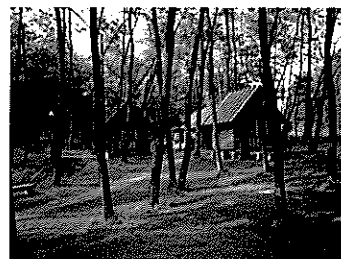
- 宿場町の名残をみせる街の景観や往時の生活文化等の資源を活かして個性ある地域づくりを進めていくことが期待されています。
- 七ヶ宿街道を活かした「街道交流」が行われており、さらに、交流を促進し、地域の活性化につなげていくことが期待されています。

③土地利用

農用地は水田、畑を合わせて町の総面積 263 k m²の 2.6%、山林は 91.4%となっており、大部分が山林で占められています。また、国有林や町外所有者による山林が多く町民の経営対象となる面積は、林家1戸当たり 4.5ha と少ないのが特徴です。

[水源地域の課題]

○山間部には七ヶ宿スキー場、コテージ、ダム湖湖畔にはグランドゴルフ場、親水空間等のスポーツレジャー施設が整備されており、これらの施設のネットワーク形成により利水地域との交流拡大につなげていくことが期待されています。



④人口と世帯

平成 17 年度国政調査速報によると、七ヶ宿町の人口は 1,871 人（男 909 人、女 962 人）、世帯数は 649 人（1 世帯当たり 2.88 人）となっております。

また、平成 18 年 3 月 1 日現在の住民基本台帳によると、高齢化率は 41.24%（男 35.53%、女 46.69%）となっております。この結果は、水源地域の過疎問題と強く結びついており、既存施設の運営や集落を維持する機能の低下、専業農家の減少、田畑の荒廃など、地域に深刻な問題を投げかけています。

[水源地域の課題]

○人口減少に伴い、遊休農地等の地域環境の管理や農林業の後継者育成、地域づくりの担い手の確保・連携強化、交流人口拡大の推進など、地域の活性化に向けた取り組みへの積極姿勢が求められています。

○高齢社会を迎え、経験豊かな高齢者の知識や技術を次世代に伝え、山村の生活文化を継承していくことが重要となっています。

また、地域の資源を活用してコミュニティ活動や交流を活性化し、高齢者が生きがいと誇りをもてるような活躍の場を創出していくことが期待されています。

⑤産業経済

産業面では、基幹産業である農林業が低迷する傾向にあり、その一方で、第3次産業の就業人口比が伸びており、産業構造が変化してきているのが特徴です。

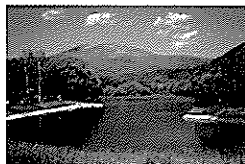
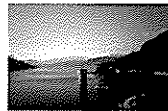
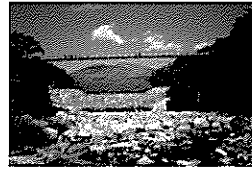
また、こうしたなかでイチゴの水耕栽培、減農薬農法への挑戦、持続可能な林業経営等に希望をもって取り組む事業者も出てきており、今後は一次産業と三次産業の連携強化や七ヶ宿型新規就農の可能性を内外に示すとともに、定住希望者への援助と育成に取り組んでいくことが重要と考えられています。

[水源地域の課題]

- 地場産材の活用による木の家づくりの普及などにより、付加価値を高めて林業振興を図っていくことが求められています。
- 農薬の節減等の環境保全に配慮して、安全で安心な食材を消費者に提供し、生産者の顔のみえる農業を推進していくことが期待されています。
- 豊かな自然を活かしたグリーンツーリズム等の振興策や、特産品の生産販売により、観光事業と農林業・商工業の連携を図るなど、地域資源を活用した新たな産業振興への取り組みが期待されています。

七ヶ宿町の観光

04.5-No3



by Saito